



くらちゃんハウス訪問記

ファミリーホームを知ろう
これから開設を志す人たちへの後押しとなりますように

編集部 知多学園八波寮 板谷 光一

はじめに

近年、国の社会的養護の流れは、施設養護から家庭的養護、家庭養護へと移行しており、「社会的養護」の中身は大きく変化しようとしています。現在の施設養護9割という状況から、今後は施設、里親、ファミリーホーム、地域小規模児童養護施設、グループホームで3分割していくというのが将来的なビジョンです。

2009年には第2種社会福祉事業であるファミリーホームが法定化されました。養育の連続性（子どもたちへの家庭保障）は子どもに対する援助において、とても重要な事項といえるでしょう。ここでは、こうした現況を踏まえファミリーホーム「くらちゃんハウス」の倉橋幸彦さんご夫婦へのインタビューを元に、小規模住居型児童養育事業と言われるファミリーホームの現状と課題を考えていきたいと思います。



くらちゃんハウス 正面玄関

概要

ファミリーホーム「くらちゃんハウス」は、2013年4月「家庭養護と施設養護それぞれの良さをお互いに活用できる連携型社会的養護の実践を目指したい」という倉橋さんご夫婦の思いから、東海市の静かな住宅街に開設されました。現在、中学生2人、小学生2人が倉橋さんたちと生活をしています。ハウスの利用案内には、「倉橋夫婦と一緒に住みながら、今の生活、明るい未来を考えていく、そんな場所です」とうたわれ、子どもたちの個性を大切にしながら笑顔あり涙ありの毎日を送っています。

大切にしていること

案内に「家族の幸せ みんなの幸せ」とうたわれています。くらちゃんハウスでは、子どもたちに「家族、家庭を知ってもらおうこと」を一番の基礎に、その中で「幸せ」を考えられるような子どもになってほしい。そして自分の幸せを感じとり知っていく中で、自身の家族や身の回りの人たちの幸せも考えていける子どもになってほしい、という期待を持ちながら、養育しています。

開設の経緯

ファミリーホームが制度化される前、中日青葉学園在職中から「子どもたちと家により近い環境で過ごしていきたい」という夢を持っていました。全国の児童養護施設を見学する中、印象深い養育形態が、職員交代制の地域小規模児童養護施設、グループホーム、特に目を引いたのは





「家庭養護を考える」3

夫婦型地域小規模児童養護施設でした。子どもにより家庭的な養育環境を施設内で模索して取り組む中、国の社会的養護の施策でファミリーホームが制度化されました。「施設で生活する児童への〈家庭〉を保障したい」という自身の思い、さらには「学園も協力体制をとっていくよ」という松田園長、寺井部長からの言葉、学園からの後押しもきっかけとなり、ファミリーホーム開設へ本格的に動き出しました。

施設との交流

現在、独立してファミリーホームを営んでいますが、中日青葉学園との交流は続いています。中日青葉学園のまつりや外出などに同行させていただいたり、行事への参加。また事務と提携し事務仕事のアドバイスを受れたりの良い交流を行っています。また、施設での生活で、気持ちの切り替えが必要な子ども、集団生活から離れてしばらく落ち着きたい子どもなどを一泊帰省という形で預かったりすることも行っております。子どものメンタルケア、家庭保障も意識し、施設の子どもの帰省場所ということで、短期里親を行っております。元職員ということで、子どもたちに大きなストレスとなる緊張感を感じさせることなく、子どもたちも倉橋夫婦も、養育の連続性を保障した中で、家庭体験をさせてあげることができます。そんな関係において施設養護から家庭養護へ移行していけることも子どもの情緒面、発達に大切だと考えます。少しでも家庭養護を経験して大人になってほしい。そういった経験を積むための、子どもたちの成長の場所を保障したいと思日々、中日青葉学園と連携をしております。



1階洗面所

兄弟ケース

この夏、中日青葉学園とくらちゃんハウスでこんな取り組みをしました。別施設で生活をする兄弟をファミリーホームが媒介となり、1日だけありますが兄弟水入らずの生活を提供。長年別々の場所で過ごす兄弟の関係性が希薄になっていくことを防ぐために取り組みました。マンパワーが不足している施設において、臨機応変に夫婦の采配で動きが取れるファミリーホーム。双方が連携をし、なかなかできないことの実現も可能となります。もちろんホームに暮らす子どもたちの合意や了承は必要ですが、少人数ですので子どもたちに夫婦の想いも伝わりやすいというのも、ひとつの特徴としてあります。

施設には男女幼児別のホーム形態が多いです。こういった子どもたちは施設内において兄弟は生活をしておりますが、一緒に食事をするこも、風呂に入るこも、寝るこもできません。くらちゃんハウスの現員数によりもちろん難しい面もありますが、離ればなれの兄弟たちがハウスで統合するいち機会としての機能を持つこもについても力を入れていきたいとイメージしているようです。





連携の先に

今後さらには施設の職員さんに遊びに来ていただいたり、泊まりに来ていただき、くらちゃんハウスの子もたちとも関わってほしいです。足を運んでいただくことで、夫婦のリフレッシュにもなりますし、お友達としゃべっている感覚で新たな視点や養育の確認をしていきたいと考えています。

施設養護ならではの視点も、ファミリーホームを運営していく中で夫婦の新たな支援の引き出しとなると考えています。そうしたより良い連携を取り、また子どもたちにもその姿を見せながら、社会的養護が広くつながっていることを感じ、安心して生活をしてもらえたらと考えています。そしてその中で子どもたちを見守っていかれたらと考えています。



リビング

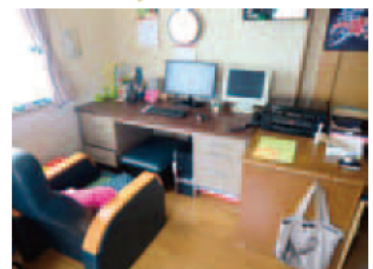
開設にあたる苦労話

苦労は大きく2点。1点はファミリーホームをするための物件探し。ファミリーホームを行う家においては、子どもたちとの距離が近すぎず遠すぎずをイメージしていました。間取りも含め、新築、中古いろいろ悩みました。リスクはありますが、3階建ての物件に落ち着きました。そしてもう1つの苦労は行政の窓口である児童相談所とのセッションでした。国の定める開設条件と県の定める開設条件には大きな開きがありました。もちろん委託のビジョンも施設と、ファミリーホームへの委託と大きくシステムが違っており、現状ファミリーホームへの措置になる子が少ない現状も目の当たりにしました。申請の仕方や書式もわからない中でのスタートでしたので、他のファミリーホームへ赴き、勉強させていただきながらいちから書式をつくっていきました。申請や手続きにあたり、他県と違い児童相談所は県との間を取り持つ役割を担っています。そういったことから申請から1年半ほどの月日を要しやっと開設に取り付けました。



印象に残っていること

夫婦げんかへの子どもの仲裁ですね。事務所で2人の仕事上の意見の言い合いは時々あります。そんな折には、中学生2人は家庭で育ったこともあり慣れているのか空気を読んで2階へ。ただ小学生の子は家庭経験が無くそういった場面に興味深々。中学生2人の制止を振り切り書斎へ走って降りてきて「けんかはやめろー！」と口論の仲裁に入ります。さらには「仲直りしろー！」と2人の手を取りくっつけてくれました。子どもにそういった場面を見せることが出来ることもホームの良さだと感じつつ、けんかは終わり微笑ましい空気に包まれました。



事務所兼書斎

旅行やお出かけも予算に合わせていきます。中学生の部活が無い時など、みんなの休みが合えば思いつきでお出かけすることも。九州長崎へ車で弾丸ツアーの家族旅行。地元のお祭りへ行ったり、試食ができるイベント、えびせんべいの里、めんたいパークへも出かけます。



「家庭養護を考える」3

施設との
違いは
ありますか

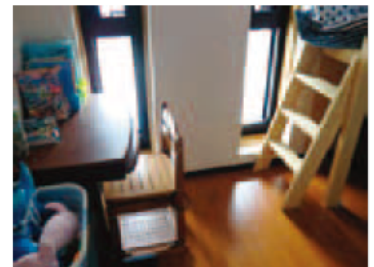
子どもたちは夫婦の生活に直結しています。子どもたちの生活が時に夫婦の生活、くらちゃんハウスの生活を脅かすことも考えられます。例えば、光熱費。措置費の支払いは現員制であるため、人数に比例した光熱費でないと運営上危機感を覚えます。そのため、光熱費を貼りだし、節約を心がけるようにし、実践もさせます。



イライラしたから物を壊すなどのことは、一切認められないことであり、物にあたった場合は、毅然とした態度で接します。居住空間が施設ほど広くありませんので、子どもの我がままが度を越えた際、テンションが異常に高く周りの空気があまり良くないときには、あまりよくありませんが、一喝することも…。家を守るお父さんとしての役割をより意識して養育するスタイルに変化してきました。

24時間一緒にいて苦勞はないですかと言われますが、24時間一緒にいることで安心して子どもたちを見ることが出来ます。「仕事」という意識がないので、生活の延長線上に子どもがいるというのが、今の感覚です。きっとその感覚はいる子ども、環境、出来事により変化していくかもしれません。

ただ少数で24時間ともに暮らすという面で、子どもたちに自分たちの思いがより伝わりやすいことも、施設養護との違いの1つです。そして自分たちのプライベートも子どもたちにさらすこととなります。友人や親などの交友関係も全てさらけ出すこととなりますので、家、大人へのイメージが子どもたちに伝わりやすいのかなと思います。実際に実家の親や友人、施設の職員など遊びに来ることで、子どもたちはお酒の席にもいて、いろいろな大人の姿、お付き合いなどを知ります。そういった点では、大人が楽しく交友関係を見せているのですから、子どもたちも大人に対するあこがれも強くなっていくと思います。それが社会性を学んでいくことなのかなと思います。また、流動的な日課の中で、子どもたちの変化に対しリアルタイムの「気付き」があります。誉めることも叱ることも、思い立ったときに伝えることができるので、子どもたちとの会話も弾みます。そういった意味では、指導、支援というカテゴリーの取り組みはなく、あまり感じていません。ただ当たり前のように生活をしているだけの感覚でいられ、特別なことをするという感覚が、以前よりも少なくなりました。



子どもの部屋

～子どもたちの主体性を大切に～

約束事はくらちゃんハウス案内に書かれている「ぼうりよくはふるわない。ぬすみをしない。はんざいこういはしない」の3つです。学習、生活についてはその子にとって「一番大切なこと」を考え話し合います。ルールは子どもそれぞれで違って当然です。学習1つでも中学1年生と中学3年生は違います。「1日何時間は」と決めて受験勉強に臨む3年生。その姿を見て1年生の子も「塾へ行きたい」と意欲を見せるようになりましたが、勉強を強要することも、日課のように時間を決めた枠組みはありません。子どもからの声を待ち、出た時には前向きに考えていく。そんな子どもの自主性を大切にしています。でも一度決めたことは、とことん付き合います。勉強時間を安易に決めた中1の子どもは、文句を言いながら勉強。最初の学年順位から半分以上も上がる成果が！

守っている
ものや
ルール



少人数ならではの、「やってはいけないこと、ルール」を認識して共有していく空気も浸透しやすいと感じています。また夫婦2人が養育の中心ですので、ルールがぶれたり、見解の違いが生じることもあまりありません。会議はなくとも、普段の夫婦の会話、子どもたちとの会話の中で自立支援計画も、見直しも、評価も進んでいます。子どもたちは自立を意識した生活はせずとも、自然にいろいろなことを体得していけるような手ごたえもあります。



開設を目指す人へ アドバイス

まずは足を運んで他のファミリーホームをたくさん見に行きましょう。出来れば宿泊の形で出来るイメージが出来やすいと思います。そしてその中で自分の養育の実践がどんなスタイルのファミリーホームが理想なのかイメージをすること、ビジョンを持つこと。自分たちにできるのかどうかを見極めることも必要です。ファミリーホームの形態は多種多様です。養育者の専任、補助員の体制、年齢や性別などの子どもの構成など多くのスタイルがあります。見学や実習を積み重ねた上で、自分たちはどのスタイルができるのか、自分たちはどんなサービスを提供できるのかをイメージすることが何より大切です。そしてエブリデーホリデーの感覚を持つこと。毎日休みなんだと思うことです。

また、行政との話し合いも大事です。県がどのようなビジョンを抱え、今後の社会的養護を考えていくかをしっかりとニーズとして把握していく必要もあります。行政とは県であり、児童相談所です。管轄の児童相談所がどのようにファミリーホームを考えているか、県がどのようにファミリーホームを考えているか、私のファミリーホームがどんな養育を提供できるのか、どんな養育をしたいのか、双方確認をした上での開設が大切だと思います。



ビジョンとは

今、社会的養護を必要とする子どもに家庭的養護を保証しようという国の流れがあります。ただ、施設でも里親でもファミリーホームでも、その子どもそれぞれに合った生活の環境が無ければ生活保証はできないと考えます。もちろん家庭保証は大事です。ただ何よりその子どもの年齢、発達、成長に合った保証をどのようにするかが大切なのです。施設も里親もファミリーホームもその全てが必要で、それぞれの特性を活かして、社会的養護がつながっていなければいけません。子どもの個性、発達に合わせた社会的養護サービスが提供でき、その各機関がつながっていることが、子どもの安心を産むと思います。施設養護と家庭養護がより良い連携を取りながら、そのいちモデルケースになれるような連携をしていきたいです。

おわりに

「幸せ」を考え、周りの人の幸せを思う。今回インタビューをさせて頂き、どのような養護にもどのような支援にも、根本にあるものとは「幸せを育てること」だと改めて感じる事ができました。くらちゃんハウスは、倉橋さんご夫婦の優しい笑顔から、その実現の可能性を十二分に感じる事ができる、穏やかな温かい空間でした。





ファミリーホーム紹介

愛知県内にあるファミリーホームを紹介します。

すすきさん家

すすきさん家の元気なお母さん
鈴木 二光代

ほくたちわたしたちのお家



平成22年4月からファミリーホームすすきさん家を開設しました。
 ほくの家は5人の男の子が暮らしています。6年生、4年生、3年生、2年生、年長それから高校生の
 お兄ちゃん、中学生のお姉ちゃん、ときどきやってくる大学生のお兄ちゃん、全員で10人家族です。
 ほくの家近くに海があって、山があって、春は近所の川にザリガニを採りに行ってお母さんを
 驚かせています。
 ほくたちは畑仕事も手伝います。一日中畑で過ごす事もあるけど、とても気持ちがいいんだよ。

わが家の家訓

おとうさんよりおかあさんの言う事をお聞きなさい。
 ご近所の人に何か貰ったら報告しなさい。
 そして、ありがとうを言いましょう。
 家族は宝もの、幸せはみんなで分け合いましょう。



ある日の休日また行事

家族で足柄サービスエリアに行って来ました。
 めちゃイケの三ちゃんが働いて一緒に写真も撮りました。
 目指すはおかレモン！しっかりゲットで記念撮影。

わが家の自慢

皆で植えて育てた
 野菜たっぷりの味噌汁
 お芋の皮は上手に上手にむけたかな？





和みの家

動物大好き
いつもニコニコお母さん



ほくたちわたしたちのお家



恵まれた自然環境の中に「和みの家」があります。
少し歩けば駅もあり、とても便利の良い場所に建っています。里親からファミリーホームになり4年目を迎えました。現在男の子4人、女の子1人の5人の子どもと猫のまりちゃんが生活しています。私自身が大家族でしたので元気な子どもたちの声に包まれる幸せを日々感じて生活しています。全員がわが子という思いで子どもたちの将来を見据え一人一人の個性を大切にしています。「お母さん一番だれが好き？」と質問してくる子ども。「そうだね～」と考えているふりをしていると「知ってる。お父さんでしょ」と「そうだよお父さん大好き、子どもたちも大好き」の答えに満面の笑顔、家族愛の中で伸びのびと成長して欲しいと思っています。

「和みの家」は子どもたちにとって穏やかな場所、くつろげる場所となっています。

わが家の家訓

テーマは「大家族」

自然のなかで伸びのびと育てる。子ども一人一人の個性を大切にす
る。

家族愛の中で優しさを感じ「和みの家」がホットできる、ほくたち、
わたしたちの家であること。



子どもの
作品

ある日の休日また行事

鼓笛隊に入って頑張っている子どもたちがいます。
パレードでナガシマスパーランドを歩いたんです
よ。みんなで応援に行きました。
すごい！すごい！わが子たちの活躍にみんな大興奮
子どもたちの自信に繋がっています。



わが家の自慢

わが家の自慢は大家族

大家族のお祝いメニューはちらし寿司、冬の定番は鍋、野菜をたっぷり
りたべてくれます。リンゴでアップルパイも作ります。大人気なんです
よ。

子どもたちからは「お母さんのロールキャベツが好
き」ってわが家の自慢料理はロールキャベツかな。



子どもの
作品



Happy Family

一応、責任者の私が
紹介します。
男性、42歳。



ほくたちわたしたちのお家



去年の4月に産声をあげたばかりのお家です。三河地方には1つしかありませんので、これからたくさん増えていくといいなあと考えております。去年の9月に引っ越しをしました。

子どもたちは、小学生の実子（女の子）と幼稚園児（2人）と、未就園児の3人がいます。3人兄弟ですがなんと、みんな男の子なのです。仲がいいときはテレビを観ているときくらいで、とにかくケンカが絶えず、ご近所の迷惑になりはしないかと毎日、ドキドキしています。そんな元気いっぱいの子もたち、近くに公園があるので、虫たちの鳴き声に負けないくらいの大きな声をはりあげて遊んでいます。近所の人たちにもとても親切にしてもらいながら、温かい心で見守っていただいております。

わが家の家訓

子どもは未来の宝

この世に大切な人として生まれてきた一人一人の子どもたちはかけがえない存在です。いろいろな人からのたくさんの愛情に育まれて、そのハッピーな気持ちを他の人にも分け与えていくことができるような人生でありたいと思っています。

貴方は、唯一の宝物だよ！



ある日の休日また行事

実子の友達を数人呼んで、家でクリスマス会を開きました。チキンやピザ、ケーキなどを食べて、宝さがしやプレゼント交換などをして盛り上がりました。

お正月には、伊勢神宮に初詣に行ってきました。獅子舞踊りを見てびっくりしました。



わが家の自慢

「何が食べたい？」と子どもたちに聞くと、「ラーメン、うどん、そば、寿司」と言います。ここでケンカが始まります。そこで、ママの手作り唐揚げが登場。みんなの泣き顔が笑顔に変わります。まだまだ幼い子どもたちなのに、何でも食べ尽くしてしまいます。おかわりをしない日はありません。ある子は、野菜が大好物でレタスを山盛り食べています。その影響で、緑色が好きになりました。





ファミリーホームわが家

いつも親父ギャグを飛ばしている
代表者の自称ダンディー木村が
紹介します。



ほくたちわたしたちのお家



知多半島道路の大府、東海インターから約700mの所にある、緑を基調とした豪邸？わが家です。昭和59年に里親登録し、10年前に建て替えた明るく楽しい家庭でファミリーホームをやっています。

子どもは国の宝、社会で地域で育てていくものとの考えが風土として残っている土地柄は私たち、特に小中学校との連携はバッチリとれています。

一向に増えない里親の数が気になり3年前に里親からファミリーホームに移行し女子ばかりの小中高生4人と黒猫ジジとで家庭養護の充実を目指しています。

わが家の家訓

愛情と信頼

同じ空気を吸い、同じ食事を共にし、同じ時間を共有する事で愛情深く関わり合い、家族の絆が結ばれます。

そしてお互いが努力して信頼関係を築き、家庭の絆ができあがると確信しています。



ある日の休日また行事

毎年、夏と冬に一泊のバス旅行と名古屋のホテルでのバイキング料理をちょっと豪華に楽しみます。(ディズニー等々)
毎月2回の外食(子どもが行き先を決める)



わが家の自慢

かなり優秀な先生(塾経営)の個別指導はありがたい事です。真剣に一人一人の子どものための勉強方法を指導してくれます。

高校生2人は特別に塾へ毎日通わせてもらってます。学習面は一切おまかせです。





(ファミリーホーム) わたしん家

ほくたちわたしたちのお家



徳田 ママ(絵美) 人間と動物が大好きな働くお母さん。「ママさん」と「発達支援事業所の管理者」をさせてもらってます。



いつまでも「僕んちはネ。わたしん家(ち)ではネ」と言える場であることを願って、「わたしん家」というネーミングを子どもたちと共に考えました。みんなにとっての家であることにこだわり5年目を迎えます。

遊ぶこと食べることの大好きな6歳から17歳の6人の子ども(女の子3人、男の子3人)たちとやんちゃ犬と長老猫、亀、イモリ、インコ等々の週中のケアを敏腕主夫の(脱サラ)パパさんが 優秀な補助員さんのサポートを受けつつこなしています。ちなみにパパさんは調理師さんです。

夕方帰宅するママを「お帰り～。お仕事ご苦労様」と迎えてくれる可愛い顔が玄関に飛び込んできます。パパ作の美味しいご飯をみんなでいただきます。もちろん週末や祭日はママがしっかり家事担当で子どもの要望を受けスペシャル(?)な食事を用意いたします。(^^)v

家族旅行はみんなの意見を聞きつつ年2回は遠出お泊まりをしています。冬はウインタースポーツを楽しみに雪山ですかネ～

わが家の家訓

子ども一人一人の権利を大切に。

(選ぶ権利 責任を取る権利 ノーと言う権利 間違える権利 待つ見守ってもらう権利 夢に向かってサポートしてもらう権利 愛され保護される権利 etc...)

子ども同士で他の子どもの権利を侵害しない。

(所有権 感情などを侵害しない)

家族としての繋がりを大切に。



ある日の休日また行事

年に2回は家族旅行に出かけます。

最近冬は雪山が定番になってきています。

今年はお正月明けにひるがの高原に遊びに行きました。里親ボラで関わっている養護施設のボウイも同行して、ソリ遊びをしたりスノボをしたりかまくらづくりをしたりと体力勝負の3日間でした。夜はみんなで「ピンゴ」や「勝ち抜きジャンケン」、「トランプ」に「ウノ」と童心に返り真剣勝負です。



わが家の自慢

休みの日などに女の子たちとクッキーづくりをよくします。サクサクの焼きたてクッキーは焦げたバターの香りとバニラビーンズの甘いにおいがしてみんなの大好物です。型抜きは男の子たちも参加します。もちろん無くなるのはあつと言う間です。作るのも食べるのも楽しいおやつ作りです。

大きくなって自分の子どもが出来たら是非一緒に作ってほしい秘伝の「徳田家クッキー」です。

